

令和2年度 日之影町立宮水小学校 学校評価

- 「評価」について、目標の達成度に基づき、次の4段階で評価を行う。
 4：期待以上、3：期待通り、2：やや期待を下回る、1：改善が必要
 ○「評価者」…「第一次」：学校による自己評価、「第二次」：保護者評価、「第三次」：教育懇話会委員評価

評価項目	達成目標と方策	第一次評価者所見	評価		
			第一次	第二次	第三次
学力向上	1 学習の基盤となる学習態度等の指導を日常的に徹底し、基本的な学習習慣の確立を図る。	体を向けて聞く、聞こえる声で話す等の指導をしているが徹底まで至っていない。家庭学習を子ども教室で終える児童が多く、家庭における学習習慣を確立していく必要がある。	3	3	3
	2 主体的・対話的で深い学びを軸とした授業改善に取り組み、思考力、表現力等の育成を図る。	ICT活用による分かりやすい授業や授業中の対話の設定により、児童の姿に思考力・表現力の伸びを感じる。単元テストにおける思考力を問う問題の正答率が一学期より向上した。	3	3	3
	3 朝の活動の活用や家庭学習の充実をさせ、基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る。	モジュールの活用、支援員による個別指導の充実により、基礎的・基本的な知識・技能の習得がなされ、各単元テストで平均80%以上を達成することができた。	4	3	3
	4 読み聞かせや学校図書司書と連携を図った読書活動を推進し、思考力や読解力の向上を図る。	町図書活動推進員の活用や朝の読み聞かせ活動、図書委員による読書推進の取組により、学校での児童の読書冊数が増えた。今後、家庭での読書量の増加を図りたい。	4	3	4
生徒指導	1 日常の指導を充実させ、時と場に応じたあいさつや会釈ができる児童を育成する。	生活指導週間や常時指導、あいさつ運動の実施により、意識が高まり、1学期よりあいさつはよくなっている。誰にでも、いつでもできるように更に意識を高める必要がある。	3	3	3
	2 学級経営の充実や教育相談の実施を通して、望ましい人間関係の醸成を図る。	楽しい学校を目指し、授業を含め学校生活の充実を図ることができた。また、悩みアンケート・教育相談の実施により、児童の悩みを早期に発見し、対処することができた。	3	4	3
	3 児童会活動や学校行事を通して主体的に活動できる力を育成する。	集会活動の制限もあり、予定していた活動を全て行うことはできなかったが、委員会活動やボランティア活動、各行事などで児童が主体的に取り組む姿が見られた。	3	-	3
	4 全職員の共通理解を図り、学級における日常の指導を充実させ、基本的な生活習慣の確立を図る。	無言清掃、靴の整頓については児童の意識も高まり、よくできるようになった。しかし、廊下歩行の意識がまだ十分ではなく、今後も指導の継続が必要である。	3	-	3
体力向上、安全指導	1 主体的・対話的で深い学びのある体育科学習や体育タイムを充実させ、体力の向上を図る。	各学級での体育科学習において「話し合い」を取り入れた学習をすすめることができた。また、体育タイムでは、体力向上の取組を中心に計画的に行うことができた。	3	-	3
	2 体力向上プランを基盤として、なわとび運動や外遊びを推進し、運動の日常化と継続化を図る。	体力テストはできなかったが、体育的行事と関連して持久走やなわとび運動に取り組んだ。また、一輪車、竹馬、スポンジロケット等を使って遊ぶ児童が増えた。	3	3	3
	3 養護教諭や栄養教諭と連携した日常指導等を行い、健康的な生活習慣や望ましい食習慣を育成する。	養護教諭や栄養教諭が積極的に授業を行い、児童の食や健康についての意識を高めることができた。また、児童の実態調査の結果をもとに個別に指導を行うことができた。	3	3	4
	4 日常的に立腰指導の徹底を図り、正しい姿勢の習慣化を図る。	必要な場面では立腰ができるようになってきたが、日常の場面では立腰の意識を持つことができていない。日常的にできるように意識を高める指導を繰り返す必要がある。	3	2	3
家庭・地域との連携	1 地域の人的・物的資源を活用した学習の充実を図る。	ひのかげ「つなぐ」学習ガイドの取組を中心に、地域について学ぶ学習を進める際に、コロナ禍ではあったが可能な限り地域の人的・物的資源の活用を図ることができた。	3	3	3
	2 家庭・地域と連携した読み聞かせの一層の充実を図る。	家庭・地域人材を活用した朝の読み聞かせを2学期より始めることができた。児童の本への興味・関心も高まってきている。アウトメディア週間で読書に取り組む家庭も増えている。	3	-	3
	3 めざす児童像や各月の重点指導目標を家庭と共有し、連携した取組で目標達成を目指す。	年度当初に保護者に周知したが、十分とはいえない。今後、家庭と連携した取組を充実させるとともに、懇談会や各通信、ホームページ等を活用し、取組を啓発していく。	3	3	3
	4 命の教育週間（7月）における外部講師との連携を図った「いのちの教育」の充実を図る。	各関係機関と連携し、学校参観日に「いのちの教育」を実施した。参観日に実施することで、家庭でも「いのち」について考える機会となった。今後も命の大切さについて指導を継続していく。	3	-	3
	5 家庭教育力を向上させるために全校懇談会の充実を図る。	全校懇談会は実施できなかったが、会で予定していた「メディアとの付き合い方」について、アウトメディア週間を活用して家庭と連携した取組を行うことができた。	-	-	3